



北海道情報大学 学位記授与式



写真／平成23年度学位記授与式で祝辞を述べる松尾理事長

目次

- 02 ■ 学長挨拶
- 03 ■ 平成23年度学位記授与式
- 04 ■ 北海道知事の『まちかど対話』
- 05 ■ 国際Webデザインコンテスト&ワークショップ
- 06 ■ イギリス長期研修報告
- 09 ■ 北海道映像コンクールで優秀賞受賞
- 10 ■ 第4回北海道情報大学図書館賞
- 16 ■ 第6回プログラミングコンテスト
- 17 ■ 学生サポートセンターから①
- 18 ■ 学生の学会発表について
- 20 ■ 平成23年度公開講座終了報告
- 22 ■ 学生サポートセンターから②
- 23 ■ クラブ紹介・ドイツゲーム同好会
- 24 ■ 短編映画『パーフェクト・ワンルーム』の制作
- 26 ■ Library News ～ 私の勤める1冊の本
- 30 ■ サッポロ・インターナショナル・ナイトに参加
- 32 ■ 大学主要行事等／編集後記





安心・安全な社会の構築に向けて

学長 長谷川 淳

今年は例年になく雪解けが遅く、春の訪れも遅いように感じられます。本学の近隣地域での今冬の降雪量も、特に石狩地方北部や空知地方において、観測史上稀に見る程の多さに達し、交通の乱れも度々経験することとなったことは記憶に新しいところです。冬期間だけではなく、気象状況が変化してきているのではないかと感じられることが、このところ多くなつたというのが実感です。これは、北海道に限らず、日本全体でも、また世界的な視野で見ても感じられることです。

これが地球規模での環境問題である地球温暖化現象に起因していることは、疑いの余地のないところです。そうして、その主原因が、私達の膨大なエネルギー消費、それも化石燃料の大量消費に伴う炭酸ガスの放出であることも歴然とした事実です。このことを背景に、特に先進国を中心に、化石燃料の大量消費を抑制して炭酸ガスの排出量削減を実現することが、喫緊の推進課題となっていました。わが国では、産業分野で真摯な取り組みの成果が上がってきていましたが、残念ながら民生分野や運輸分野では、なお一層の努力をしなければならぬ状況でした。

そのような中、平成23年3月11日に未曾有の巨大地震と津波が東日本を襲いました。これにより多くの人命が失われ、広範な地域で壊滅的な被害がもたらされました。また、この津波が引き金となり、福島第一原子力発電所において深刻な事故が発生してしまいました。これ

らが我が国の社会・経済へもたらしている影響は極めて重大で、全ての人々が一致協力してこれ乗り越えて行く必要があることに異論の余地はありません。長い道のりとなるでしょうが、国を挙げて復興を果たすとともに、安心・安全な社会の構築に向けて総力を結集する必要があります。

安心・安全な社会を構築していくためには、私達の生活の在りようを見直すことも含めた、大きな社会変革が求められています。地球規模での環境問題がなくなつた訳ではありません。したがって、今後のわが国においては、化石燃料への依存度を下げするための選択肢を真摯に検討し、推進する必要があります。省エネルギーと再生可能エネルギー利用の拡大はもちろん必須ですが、安心・安全で信頼性の高い原子力利用(廃炉技術の確立をも含む)も避けて通ることのできないところです。

従来でも、ITは社会システムを支える重要なものであり、あらゆる側面においてITに依存しないという選択肢は非現実的なものでしたが、多くの社会システムにおいて未だITを道具としてのみ考えている可能性も否定できません。しかしながら、新しく構築していく安心・安全な社会においては、全ての社会システムに表裏一体のものとしてITが関与している必要があります、そうしなければ解決策は見いだせません。

平成23年度 学位記授与式 挙行



祝辞を述べる松尾理事長

3月16日(金)
午前10時から、
本学松尾記念
館講堂におい
て、平成23年
度北海道情報
大学学位記授
与式が行われ
ました。

経営情報学
部第二十回、
情報メディア
学部第八回、
通信教育部第
十五回、大学
院第十五回の
合同で行われ
た式の模様は、
会場に設置さ
れたテレビカ
メラにより、
全国の各教育
センターにも
同時中継され
ました。

前年度に引き続き、開式前には、東日本大震災でお亡くなりになられた方々に哀悼の意を表し、黙祷を捧げました。
式は、厳粛なうちにも和やかな雰囲気の中行われ、式後は、卒業記念写真撮影、学科等別学位記授与、体育館での卒業祝賀会と続き、学位記を手にした卒業生・修了生たちは、大学との別れを惜しんでいました。

(総務課)



卒業生答辞

●卒業生

- ・経営情報学部
 - 経営ネットワーク学科・先端経営学科 44名
 - システム情報学科 64名
 - 医療情報学科 54名
- ・情報メディア学部
 - 情報メディア学科 112名
- ・経営情報学部 通信教育部
 - 経営学科・経営ネットワーク学科 26名
 - 情報学科・システム情報学科 242名

●修了生

- ・経営情報学研究科 12名



北海道知事の『まちかど対話』 — こんにちは知事です！ —

研究説明の様子



2月1日(水)に高橋はるみ北海道知事が本学を訪問されました。これは、「知事のまちかど対話」という行事で、知事自らが道内の各地域・施設などを訪問し、地域の方々と直接対話をするものです。

知事は、本学が行っている「食の臨床試験」の研究説明、施設見学、臨床試験ボランティアの方々との交流ということで、本学に隣接する北海道情報大学国際交流センターを訪れました。

知事は、本学が行っている「食の臨床試験」に対し、道産食品の価値を高め、食の臨床試験や機能分析を行い、低コストの先進的・効率的な機能性食品臨床試験モデルを構築されているだけでなく、その研究成果を地域の皆さんの健康増進につなげ、さらには機能性食品に付加価値を付け、新たな産業創出の可能性も生まれているということに、大変感銘を受けられたようです。

また、臨床試験ボランティアの方々との交流では、この研究を支えようという頼もしい力を実感され、本学も参画している北海道フードコンプレックス国際戦略特区を展開するため、引き続き全力で取り組んでいく決意をあらたにされたようです。

《本学を訪問された主な方々》

北海道知事	高橋 はるみ 様
北海道議会議員	勝部 賢志 様
北海道石狩振興局長	荒川 剛 様
北海道知事室次長	山澄 克 様
北海道広報広聴課長	野村 聡 様
北海道石狩振興局地域政策課長	田辺 きよみ 様
江別市長	三好 昇 様
江別市企画政策部長	鈴木 誠 様
江別市経済部長	加納 好春 様
江別市経済部企業立地課長	大川 直久 様

(総務課)



知事を囲んでの記念写真

本学とタイ王国・ラジャマンガラ工科大学タンヤブリ校(RMUTT)との間で、「国際Webデザインコンテスト&ワークショップ」が行われました。これは、日本学生支援機構の留学生交流支援制度(SS&SV)の奨学金を得て、

平成23年4月から約一年間、両大学の学生が参加する合同のWebデザインコンテスト(国際WDC)とワークショップを組み合わせて行われたプログラムです。「国際交流を通じて、Web技術・表現力の一層の向上を目指すとともに、ワークショップ等により海外の学生との友情を育む」という趣旨で実施されました。国際WDCおよびワークショップに参加する学生は、本学とRMUTTがそれぞれ学内で行ったWebデザインコンテストの優れた作品の制作者から選抜されました。

昨年には、タイ王国の大洪水という予想外の事態が生じたため、一時は本プログラムの完全実施が危ぶまれました。RMUTTキャンパス全体が1.5m浸水し、11月からの第二学期が一月以上遅延するという事態になりましたが、これまでに築いたRMUTT教職員との信頼関係をもとに実施することができました。

大洪水による被害のために、Web作品制作には様々な困難があったにもかかわらず、RMUTTからは四学部の学生による優れた作品が国際WDCにエントリーされました。本学からも意欲的

国際Webデザインコンテスト&ワークショップ in Thailand & Japan

Webデザインコンテスト実行グループ 経営情報学部教授 穴田 有一

な作品がエントリーされ、とくにその中のいくつかは、学生のレベルをはるかに超えるものでした。ワークショップは、3月1日から3月9日まで、まずRMUTTで行われ、引き続き舞台を本学に移して3月17日まで行われました。前半

は、本学から川上教授、隼

田准教授、小黒国際交流・

留学生支援事務室職員そし

て筆者の四人が参加、後半

はRMUTTから五人の教

職員が参加し、それぞれ現

地大学の教職員と協力して

グループワークを支援しま

した。グループワークでは、

本学二人、RMUTT二人

を一グループとし、合計五

グループが『タイと日本の

文化の比較』というテーマ

でWeb作品を共同制作し

ました。各グループの具体

的なテーマは事前調査をも

とに学生が考えたもので、

「服装」、「ピクトグラム」、

「料理」、「学生の日常生活」、

「ペット」について日本と

タイを比較するというもの

です。テーマについて取材するために、

学生たちは大学キャンパスだけでなく、学外でも

調査し、それぞれ相手国との文化の違いを実感しました。とくに、本学の学生はタイ料理作りを体験するなど、貴重な経験もしました。

ワークショップの締めくくりとして、国際WDCの表彰式が本学で行われ、長谷川学長、富士副学長、森澤、山北両学部長ほか教職員が参加、RMUTTからも四学部の学部長をはじめ十六名の教職員が出席しました。表彰式では、ワークショ

ップで制作したWeb作

品も紹介され、大変な盛り

り上がりを見せました。

全てのプログラムを終

了する頃には、両大学の

参加学生は大変親密にな

り、多くの学生が別れを

惜しんで涙を流しました。

グループワークではコミ

ュニケーションで苦勞し、

また、初めて訪れた国で

不安を抱えながら共同で

一つの作品を作り上げた

ことが、彼らの共感と連

帯感を生んだのではない

かと思えます。彼らを見

守った両大学の教職員も

感動を共有しました。こ

のような交流は、タイと

日本の関係だけでなく、

広く良好な国際関係の維

持に貢献すると信じています。

本プログラムは、中居常務理事をはじめ近藤事

務局長、国際交流・留学生支援事務室他、多くの

事務局の皆様のご支援があって実施できました。この場を借りて御礼申し上げます。





古典学部で

去る平成23年4月12日から12月20日までの二百五十三日間、私は英国ケンブリッジ大学古典学部において国外研修を行わせて頂きました。留守中にご支援を賜った教職員各位に深く感謝申し上げます。滞在中の経過などを報告させていただきます。

ケンブリッジ大学古典学部の好環境

私が国外研修の研究課題に据えたのは「古代ギリシア哲学における行為論と芸術論」でした。具体的には、古代徳倫理学の行為論を現代の実践的個別主義に架橋する一方、アリストテレス『詩学』の芸術発生論を探究方法の側面から再検討するのがテーマでした。この分野は哲学者たちの熱い関心を集めているため、世界と競争するには最先端の研究動向をとらえる作業が欠かせません。その点、ケンブリッジ大学古典学部は最良の研究環境であったと思います。

理由の第一は、ケンブリッジ大学の研究スタッフが極めて充実していることです。私の受け入れ役になって頂いたマルコム・スコフィールド教授(古典学部長)をはじめ、研究の広さと深さで知られるデイヴィッド・セドリー教授、個人著作集を昨年以上梓されたマイルス・バーニエアット教授、最も若い世代の俊英ジェイムズ・ウォレン氏から受けた示唆は、私にとって新たな出発点になりました。また、既に定年退官されたものの、重鎮として今なお若い世代に刺激を与えているSir. ジェフリー・ロイド氏と再会できたことは望外の喜びでした。ロイド氏が北海道大学で講演して以来、ほぼ20年ぶりでしたが、氏は依然かくしゃくとされ、私のアイデアに対して貴重な意見をくださいました。

このように、世界の研究をリードするスタッフがそろっているのは、創立以来八百年余の歴史を持ち、2010年の大学ランキングで「世界最高の大学」に選ばれたケンブリッジ大学なればこ

そです。加えて、私が客員研究員として所属した古典学部には、哲学者のみならず、ギリシア・ローマの歴史、文学、美術の研究者がひしめいていました。ですから、ギリシア悲劇について議論する相手が比較的容易に見つかったのです。

理由の第二は、ケンブリッジ大学の図書館が格段に充実した所蔵資料を持っていることです。私は一日の大半を古典学部図書館で過ごしましたが、ここは研究遂行にうってつけでした。手を伸ばせば、読みたい文献がすぐ手に取れる夢のような環境、といっても過言ではないでしょう。英国国内で書かれた論文はもとより、欧米を中心とする世界各国の主要文献と、国際学会誌のバックナンバーが揃っています。ここ百年ほどの国際学会誌を繰ってみると、ドイツ語やフランス語で書かれた論文の割合が減り、英語が支配的になっていくのが印象的でした。

さらに、学部図書館の数百倍の蔵書を誇る大学図書館には、古代や中世の写本があります。私のように古い時代の哲学思想を専攻分野とする者にとつては、刊行本ではなく、肉筆で記された写本に何がどう書かれているのか、それをチェックすることが究極の研究作業になってきます。日本国内ではほとんど不可能な作業だけに、大学図書館の写本ルームに入室を許された時間は、まさに研究者として至福のひとつときでした。

国際学会と研究会で得たもの

理由の第三は、ケンブリッジ大学で開催された国際学会に参加できたことです。5月30日〜6月3日に開催された「ポリテイア（国家論）」シンポジウムと、7月25日〜28日に開催された「ソクラテスの死」をテーマにしたトリエンニアル・シンポジウムでは多くの収穫がありました。とりわけ、英国内の大学から訪れた著名研究者の発表が鮮烈でした。キングス・カレッジを会場とした

ランチの席では、偶々セント・アンドリューズ大学のサラ・ブローディー教授（王立スコットランド・アカデミー会員）と向かい合わせになり、彼女の主要な研究分野である倫理学や、映画版最新作の「ハリー・ポッター」の話題について話し合ったことが心に残っています。

また、学会に劣らず、古典学部で週二、三回行われる研究会も得るものの多い時間でした。

教授たちは授業終了後、午後8時前後に再び学部の一室に集まり、ギリシア語やラテン語の書物を読みながら意見交換するのですが、終了時刻は10時過ぎになります。私の滞在中は、ローマの哲学者セネカの『自然学論集』やギリシアの哲学者プラトンの『国家』を購読しました。このうち前者は、東日本大震災に関連した選書で、ローマ時代にも地震（ラテン語の表現では「大地震の運動」）が発生したことから、それに遭遇したとき人間はどう振舞うべきかを論じたものです。日本の生々しい状況が話題になることもあり、緊張を覚えながら参加していたことを昨日のように思い出します。

こうして研修中の私は、刺激を受けながら小論を書き進めた





り、アイデアを膨らませたりすることができました。その一部が、本学紀要第二十三巻第二号掲載の拙論‘Aristotle on natural generation of poetic arts’です。

ケンブリッジの文化的伝統

今振り返ってみますと、私は古典学部だけでなく、ケンブリッジ大学全体の進取の気風や、質素ながら生き生きとした街の雰囲気から深く影響を受けた気がします。その点、2005年夏に滞在したオックスフォード大学の泰然とした空気とは違うものを感じました。

ロンドンの北七十キロに位置するケンブリッジは人口約十万人、千人の小さな街(ちなみに、江別市は約十二万二千人)ですが、かつて国王ヘンリー八世や革命家クロムウェルを通じて英国史の舞台となり、大学が発展してからは、十三人の英国首相と九人のカンタベリー大司教、ニュートン、ダーウィン、ラッセル、ケインズなど錚々たる学者を無数に輩出しました。単一の大学・研究所としてはノーベル賞の受賞者数で最多を誇ります。電子を発見したトムソン、電磁気学を発展させたマックスウェル、DNAの二重らせん構造を発見したワトソンとク

リックは皆、この小さな街の一角で研究に従事したのです。

しかもケンブリッジは、英国有数の文学と芸術の街でもあります。ミルトンやバイロン、ワーズワースなど英国の著名詩人の三分二はケンブリッジ大学の出身といわれ、シェークスピアの協力者にして後継者であったジョン・フレッチャーもそうです。ちなみに、シェークスピア自身はキングス・カレッジの近くで『ハムレット』を上演したことがあります。そうした伝統から演劇が盛んで、英国を代表する女優エマ・トンソンはケンブリッジ大学で学び、この街でデビューしたそうです。私は滞在中に、カレッジの庭で上演されるシェークスピア劇をいくつか観ましたが、どれも凝った演出でした。英国留学中の1900年に一泊二日でケンブリッジを訪れた夏目漱石も、きっと演劇の話題を耳にしたにちがひありません。

暮らしの空間としては、足繁く通った商店、役所、小中学校、病院が思い出多い場です。家内、十歳の長男、五歳の次男を連れての渡英で、しかも大学の家族寮ではなく市街地の借家住まいでしたので、ケンブリッジで生活者として過ごした時間が濃密に感じられます。とくに、まるで英語がわからないまま現地の公立小中学校に入学した子どもたちにとっては、強烈な英国体験だったようです。グリニッジ標準時を示す腕時計を、帰国後も日本時間に戻そうとしません。彼らの心の中では、いまだに英国時間が流れているのでしょう。

最後になりますが、国外研修中に授業や担任業務を代行して頂くなどご支援を賜った教職員の皆様に重ねてお礼申し上げます。また、研究室に戻った私に、英国や英語の現状などを尋ねに来た学生諸君からは、帰国のための快い洗礼を受けた気分です。ここに記して感謝します。

2011年度 支部総会 及び 第17回 映像コンクール表彰式



授賞式で受賞者たちと(左から二人目)

第17回北海道映像コンクール 学生部門優秀賞を受賞

情報メディア学科4年・多田ゼミ 西本 堯弘



授賞式であいさつ

今回、ゼミで制作しました私の映像作品「ヒトリノ歌〜ヒトカラ」という娯楽〜」が日本テレビ映画技術協会が主催する第十七回北海道映像コンクールにて学生部門優秀賞を受賞しました。

この作品はここ数年で急に増えてきたカラオケを一人で楽しむいわゆる「ヒトカラ」にスポットを当て、利用者や店の戦略などを通して、その背景や、理由を探るといった内容です。カラオケだけではなく食事や旅行などの「お一人様現象」にも目を向け、娯楽の多様化から「ヒトカラ」というカラオケとはまた異なる一人で楽しむ娯楽が現代に生まれつつあるのではないかと考え制作したものです。映像を制作している時期に東京でヒトカラ専門店がオープンするなど確実にヒトカラというものが浸透しており、時代の最先端で起きている事に興味、関心を持った事が評価されました。

表彰式は2012年1月6日に行われ、放送のプロの方が沢山集まっており非常に緊張しましたが色々な話を聞けた事はとても貴重な体験となりました。

最後に映像に出演、取材協力してくれた方、ゼミ生みんな、そして多田義昭先生、どうもありがとうございました。



ゼミの多田先生と

第4回(2011年度)北海道情報大学図書館賞



先に、第4回(2011年度)北海道情報大学図書館賞が実施され、平成23年12月1日に審査結果が発表されました。本学の図書館賞は、学生の読書力及び表現力の向上を図ることを目的に2008年度から実施され、本年度で第四回目を迎えました。応募件数は、第一部門：読書感想文七編、第二部門：小論文一編という結果でした。

立花館長を委員長とした図書委員会委員五名及び協力委員二名の計七名で構成された審査委員会の厳正な審査の結果、下記のとおり受賞作品が決定されました。残念ながら今年度は両部門とも最優秀賞に該当する作品がありませんでした。

表彰式は、12月9日(金)インフォメーションプラ

第4回(2011年度)北海道情報大学図書館賞

審査結果一覧

第1部門：読書感想文

- 最優秀賞(該当作品なし) ◇副賞：図書カード(3万円分)
- 優秀賞(1作品) ◇副賞：図書カード(2万円分)
- ・『神様のカルテ』を読んで
福澤 健吾 経営情報学部先端経営学科3年
- 佳 作(1作品) ◇副賞：図書カード(1万円分)
- ・『1リットルの涙』を読んで
禹 麟娜 南京大学外国語学院日本語学科

- 奨励賞(3作品) ◇副賞：図書カード(3千円分)
- ・『ノルウェイの森』と、風と老人
西川 晃央 経営情報学部先端経営学科1年
- ・『キノの旅』X
川中 拓史 経営情報学部先端経営学科3年

- ・リリー・フランキー『東京タワー』を読んで
川村 健人 経営情報学部先端経営学科2年

第2部門：小論文

- 最優秀賞(該当作品なし) ◇副賞：図書カード(3万円分)
- 優秀賞(該当作品なし) ◇副賞：図書カード(2万円分)
- 佳 作(1作品) ◇副賞：図書カード(1万円分)
- ・中国人と日本人の違いーその違いに学ぶー
李 詩琪 南京大学外国語学院日本語学科



図書館事務室より談話

本を読むことから、様々な人の人生を疑似体験できたり、有名無明に関わらずあらゆる人が、あなただけに語りかけてくれる貴重な時を経験できます。

読書に限らず、心が動かされる出来事に出合ったら、そのことを誰かに伝えたいと思う気持ちは誰にでもあるのではないのでしょうか。ツイッターでつぶやいたり、ブログをアップして、たとえ知らない誰かにでも、いいね！と言ってもらえるだけで、ちょっとうれしい気持ちになったりする。そんな経験のある学生の皆さんも少なくないでしょう。

ところが、図書館賞という発表の場への応募件数は、ちょっと停滞気味なのです。大学図書館が募集している読書感想文や小論文に対して、試験や課題のような難しくかしこまったイメージを持っているとしたら、私たち図書館員はもっと皆さんに本当のことを知って頂かなければと思います。読書感想文や小論文は読解問題の解答とは違います。読書した感想に正解も不正解もないからです。

主催者としては、臆することなく自分の言葉で表現した、すてきな作品に出会いたいと思っています。図書館賞はどんな斬新な発想も受けとめることのできる懐の深さを持って、みなさんの作品をお待ちしています。あなたが感じたこと、考えていることを文章にしてご応募ください。

2012年度の図書館賞は、これまでで一番、元気な若い力に溢れた作品で一杯のコンテストとなることを期待しています。

後に於いて、長谷川学長、富士副学長、中居常務理事、立花図書館長、近藤事務局長、審査委員各位の列席の下、各賞の受賞者に対し学長から賞状と副賞(図書カード)が贈られました。続いて、立花図書館長から応募作品全体に対する講評があった

後、優秀賞の福澤君から受賞者の挨拶、中居常務理事から祝辞をいただきました。引き続き、eDCタワー二階カフェレストランにて受賞学生と学長、副学長、常務理事、図書館長、審査委員等との懇談会(昼食会)が催されました。



講評

審査委員長 立花 峰夫

北海道情報大学図書館賞は今年度で四回目を迎えました。今回の応募総数は八名にとどまり少し残念でした。

審査の結果、今年も、最優秀賞は第一部門（感想文部門）第二部門（小論文部門）ともに該当作品なしとなりました。優秀賞作品としては、第一部門（読書感想文）の福澤健吾君の「神様のカルテを読んで」が選ばれました。

これは、大学病院を選ばず、信州の基幹病院「本庄病院」に勤めて五年になる「栗原一止」医師と七十二歳の高齢の女性末期癌患者の「安曇さん」との出会いと別れの、その間の心の交流を描いた作品です。最後まで礼儀正しく笑顔が華やかに輝いている「癒しの安曇さん」の死後、残された栗原医師に宛てられた手紙、それはまさに「天使のカルテ」ともいえるべきものであったという内容を読んだ感動をまとめたものでした。読む人を作品へ誘う良い感想文でした。未読の方には、私からも是非一読をお勧めします。

今回は、読書感想文のみならず小論文についても、是非たくさん応募してくれることを願っております。





第1部門：読書感想文 優秀賞作品

「神様のカルテを読んで」

先端経営学科3年 福澤 健吾

神様のカルテという本を読む前、タイトルを見たとき私は直感で非現実的物語だと感じていた。しかし、その直感は大きく外れていた。この本は現在の医療の現場や身近にいるような人間、一人の人間の人生の終わりを鮮明に描いた現実的な心温まる作品であった。

この物語の主人公は「栗原一止」といい、二十四時間三百六十五日対応の信州にある本庄病院に勤務する五年目の内科医である。この本庄病院は一般診療から救急医療まで、幅広い役割を果たす地域の基幹病院となっている。栗原一止は、日中では内科医であるが夜になると救急医に変わる。本庄病院は常に医師不足であり、35時間勤務も珍しくなく、内科医が骨折や打撲などの治療をするほどである。しかし、「これが地方病院の現状」だという。私は、この現状が本当だとして自分がもしこの立場だと考えると当然耐えられないと思う。しかし、栗原一止は理不尽な社会に文句を言いながらも毎日を過ごしている。こういった栗原一止と同じ立場のような人間は世間にはたくさんいるのではないかと私は感じた。

栗原一止は既婚者であり、嫁の名前は「片

島榛名」といい、山岳写真家である。栗原一止は片島榛名のことをハルと呼び、一方、栗原一止はイチさんと呼ばれている。この二人が住んでいる家は、普通の家ではない。「御嶽荘」といって「もともとは旅館を経営していた建物なのだが、今はそれぞれの部屋を人に貸して下宿として利用されている。」この建物を二人は我が家と呼んでいる。御嶽荘には二人以外にも住人がいる。住人はたくさん人間の間がいるようだが、その中で親しい人間として売れない貧乏絵描きの「男爵」と大学院生の「学士殿」がいる。この二人と栗原一止でよく宴会をしている。その宴会の中で栗原一止は悩みを打ち明けている。「信濃大学医学部付属病院」からお誘いの声がかけられているのである。大学病院というのはいわゆる医局であり、医局制度を説明すると、「医学部六年間を卒業した医学生が医者になる道は、大きくわけて二種類ある。ひとつは大学病院の医局に所属する道と、もうひとつは医局に所属しないどこかの病院に就職する道である。比率はだいたい四対一くらいで、医者の八割は医局に所属すると考えてよい。数年前から

始まった、新しい研修医制度のおかげで、最初の二年間の研修期間は一般の病院に出ている医者が増えたが、三年目になると結局その多くが医局に取り込まれているのが現状である。」その中で、栗原一止は就職先の病院を見つけてそこで五年間働き続けている数少ない人間である。栗原一止が医局に入らず、今の本庄病院に就職した理由として「私は人の多いところが嫌いで、この町が好きだった。その条件に当てはまるのが本庄病院しかなくなったというだけだ。前向きな動機などひとつもない」と言っている。しかし大学病院に行くのを拒んでいる。その理由として、栗原一止はこう本音を言っている。「医者の中にも、より高度な医療を目指すものと野に下るものがある。私は後者だ。今のように多忙な病院で多くの患者を診ていくことが医者の本分と思っている。そういう人間に高度医療とやらがどこまで必要なのか、私の中でも結論は出ていない。」私はこの栗原一止の考えはとても深く感じた。私の勝手な見え方だが、大学病院は最高の医療技術で人間を救っているのは確かだが、高度な医療を目指し、現段階の人間の

命よりも将来的に救う命の方が大事に考えているのではないかと思えてしまう。一方、栗原一止の考える「良い医者」というのは今生きる人間をより多く救うということであり、人生の終わりの近い患者に寄り添える医者でありたいと思っている。この両方は今の医療の姿であり、この栗原一止の悩みは今後の「医療社会」の重要なキーワードではないかと感じた。しかし、この栗原一止の悩みはこれから一人の患者によって大きく動いていく。その患者は高齢の癌患者の安曇さんである。安曇さんは最初の外来の人間ドッグで胆のう癌が見つかり、手術がやっかない部位にあった為、手術が困難と思われるが、可能かもしれないという望みをかけて、栗原一止が大学病院への紹介状を書いたのが安曇さんとの出会いである。そして、安曇さんが二度目の外来にいられた時、栗原一止に大学病院の返書を差し出した。そこには「手術不能と判断。本人にもすべて説明しました」という簡単な文章があった。安曇さんは大学病院の医者に「あと半年の命だと言われました。治療法はないから、好きなこととして過ごしてください」と

と告げられたことを栗原一止に話した。安曇さんは今年で七十二歳、早くに夫を亡くし、子供も親戚もないひとり暮らしである。栗原一止は、この大学病院の医者の中に激怒した。初診の外来で、たった一人の孤独な患者に「半年で死ぬから今のうちに好きなことをしろ」というのはそれは無責任なことだ。

このような大切な話をするときこそ、時間をかけて関係を築かなければならないと栗原一止は考えている。そうして、栗原一止は大学病院では診てもらえない安曇さんを診ることになった。安曇さんは礼儀正しく、笑顔が華やかに輝いていて、ナース・ステーションでは「癒しの安曇さん」とまで言われている。安曇さんは山が好きだった。亡くなった夫との出会いの場所や家をもった場所が穂高の山奥の小さな山村であり、その時のエピソードを栗原一止にも話していた。その後、安曇さんの誕生日に山を見せてあげるようになった。その山を見て安曇さんは今まで孤独それだけの人生だったが「でも、最後の最後でこんなに幸せな時間が待っていたなんて、本当に人生というものは分からないものです」と言っ

た。数日後安曇さんは天国に逝った。その後、栗原一止は亡くなった安曇さんからの手紙を見つめる。その内容が栗原一止の悩む背中を押し、本庄病院に残るきっかけになった。「大学病院に行った時、えらい先生に言われたことを思い出します。「大学は安曇さんのような人を診る場所ではないのです」と。ではどこで診てもらえばよいのですか、と問うても大学の先生は困ったような顔をしているだけでした。でも、私はその時、すぐ先生の顔を思い出したのです。きっとどこかで、先生はこんな治りもしない病気のおばさんになって手を差し出してくださいと、私にはわかっていたんですね。病むというのはとても孤独なことです。先生、どうかご苦労の絶えぬ身とは思いますが、私にくださった温かい時間をこれから多くの孤独な人たちにつくってあげてください。いつもなにか考え込んでいらっしゃる様子をお見受けしましたが、私には相談に乗って差し上げるだけの器量も時間もありませんでした。でもひとつ確かなことは、先生は私にすばらしい治療をしてくださったということ。病の人にとって、もっとも

つらいことは孤独であることです。先生はその孤独を私から取り除いてくれました。たとえ病気は治らなくても、生きていることが楽しいと思えることがたくさんあるのだと、教えていただきました。(以下中略) 私はこの安曇さんの手紙を読んで、真っ先に思ったことは、ついこないだの東北大震災である。あらゆるニュース、新聞で取り上げられていた家族の死、身近な人の死で孤独になってしまった人たち。今その人たちは、どんな気持ちで自分の人生を歩んでいるのだろうか。安曇さんのように栗原一止に出会う前のような孤独な気持ちになっている人は少なからずいると思う。阪神淡路大震災では、実際に老人の孤独死が相次ぎ、問題になっている。東日本大震災に関わらず、もしかしたら私の身近にも孤独と戦っている人はいるのではないかと思う。このような時代だからこそ、私たちのような未来を背負う若者が立ち上がって、孤独に苦しんでいる人たちに寄り添うことで、安曇さんのように幸せな時間を与えることができるのではないか。そう本が私に語りかけているようにも感じた。

第6回 プログラミング コンテスト 結果報告



第六回を迎えたプログラミングコンテストですが、今回は、新しい試みとして「カーレース部門」を新設し、従来の作品は「フリー部門」に応募してもらうように変更となりました。

多数の方々にご協力いただき、応募件数は過去最高の三十一件となりました。ただし、新設したカーレース部門の件数が五件と少なかったこと、システム情報学科以外からの参加が少ないことは残念でした。しかしながら今回の最優秀賞は情報メディア学科からの作品が選出されました。システム情報学科以外の学科から最優秀賞が選ばれたのは今回が初の快挙です。

フリー部門では例年同様、プログラミング言語もテーマも自由とし、選ばれた作品ではプレゼンテーションも含めて評価を行いました。今年度の特徴としてはスマートフォンまたはタッチパッドなどで採用例の多いAndroidプラットフォームで動作する作品が多数集まりました。カーレース部門は、審査員側で用意したカーレースシミュレーション環境で動作する車の制御プログラムを応募しタイムを競う部門となっています。適切な物理演算を行うシミュレーション環境であるため、ロボットの制御プログラムで必要とされるような技術が問われます。応募された作品は少ないものの最速タイムを出したプログラムには速度の制御プログラムなどに工夫がみられました。

ここで受賞作品のタイトルと

受賞者

- * 最優秀賞
 - +タイトル「FULL LIGHT (フルライト)」
 - +チーム名: RAU
 - +0923039: 橘 龍一 (代表)、0923028: 上田 直輝、0923030: 葛西 瑛
- * 優秀賞 (フリー部門)
 - +タイトル「プラグイン管理ソフトとポート通信プラグイン」
 - +0912124: 松本 哲弥
- * 優秀賞 (カーレース部門)
 - +チーム名: プロになりたい卵
 - +0912106: 大迫 祐基 (代表)、1012045: 大竹 直人
- * 奨励賞
 - +タイトル「今日の天気を表示する待ち受け画面」
 - +0912011: 斉藤 成美

内容を簡単に紹介します。

最優秀賞に選出された「FULL LIGHT (フルライト)」という作品はキャラクターをひたすら走らせる横スクロールのスピード感のあるアクションゲームです。フリー部門の優秀賞を受賞した作品は「プラグイン管理ソフトとポート通信プラグイン」というタイトルで脱着可能なソフトウェア部品(プラグイン)を管理するシステムを独自に構築し、特にシリアル通信を行うプログラムの実装を作成した作品です。

カーレース部門の優秀賞は前述したように車の制御プログラムですが、チーム「プロになりたい卵」が47分60秒の記録を出しました。最後、奨励賞の作品は「今日の天気を表示する待ち受け画面」というタイトルで、携帯電話の待受画面に一目で様々な情報を確認できるようにしたFLASHベースのアプリケーションです。

応募作品の詳細などについては<http://procon.do-johodai.ac.jp/>のサイトにて公開していますので、是非参照してみてください。

今年度は、最優秀賞と優秀賞の作品のレベルは高い物となりましたが、全体的に見るとややレベルは下ってきているという印象があります。奨励賞二件は該当者無しとなっていますが、来年度は全ての賞が授与されるよう奮闘を期待したいと思います。

「北海道情報大学 大学説明会」を東京で開催

平成24年2月20日(月)東京中野サンプラザにおいて「北海道情報大学 大学説明会」を開催しました。

この説明会は、主に首都圏に本社がある企業等に対し、本学の現状や教育内容の説明と学生からの研究発表等を通して、本学が目指す教育研究の方向性やその内容を理解していただき、学生の就職に結びつけることを目的として毎年開催しています。

まず初めに松尾 泰理事長から、企業の皆様に対し採用に際しての日頃の感謝の意を述べる挨拶で始まり、大学の果たすべき役割や本学の取組についてお話がありました。続いて長谷川 淳学長から本学の現況や特色、教育目的等の説明が行われました。

学生の研究発表では、システム情報学科4年 木村 匠君から「通所介護事務処理支援システムの開発」、情報メディア学科4年 野上 和真君から「カードゲームを用いた英語学習Androidアプリケーションの開発」の発表が行われ、続いて卒業生代表として、システム情報学科4年 松岡 宏泰君と新潟教育センター4年 佐藤 良太君から代表挨拶が行われました。

特別講演では、株式会社NTTドコモ 照沼 和明様から「携帯端末(スマートフォン)の現状と将来展望」と題して、市場動向や新たな価値創造の取組等について貴重なご講演を賜りました。

説明会後の懇親会では、中村 忠之就職部長から挨拶、出席企業を代表してNTTデータシステム技術株式会社 代表取締役社長 佐々木 克様から乾杯のご発声を頂き、企業、大学関係者及び全国の教育センター長が就職状況や次年度の採用等について情報交換を行いました。最後に富士 隆副学長の締めの挨拶で大学説明会を終了しました。

北海道情報大学 大学説明会



北海道情報大学 企業・病院説明会



「北海道情報大学 企業・病院説明会」開催

平成24年3月1日(木)京王プラザホテル札幌において「北海道情報大学 企業・病院説明会」を開催しました。

説明会は合同説明会形式で、平成25年春に卒業予定の学生が企業、病院のブースを訪問し、概要や特色、求人内容や採用日程等を伺うという形で行われました。39企業、4病院にご参加頂き、就職を希望する学生のほぼ全員が出席し、盛大に行われました。

企業の方からご回答頂いたアンケートでは、「積極性を見せてほしい」「自分の意見や考えをはっきり言えるようになってほしい」「もっと自信を持って、自分をアピールしてほしい」等、企業側が求める人材像について貴重なご意見を頂きました。

説明会後の懇親会では、株式会社データサービス 代表取締役副社長 坂本 哲也様から乾杯のご発声を頂き、その中で、これまでと比べて元気の良い学生が多かったと思うとの感想を頂きました。学生の皆さんには褒められた部分をぜひもっと伸ばして欲しいと思います。積極的に活動を行い、夏休み前を目標に内定、そして就職を決めることを期待しています。

北海道情報大 学生(学部・大学院)の学会発表について

電子情報通信学会 知能ソフトウェア工学研究会 (於：北海道情報大学)

7月29日 石塚 貴浩 システム設計プログラム 修士課程2年
「プログラミング学習支援システム B E giner/1の開発」

情報処理学会 第74回全国大会 (於：名古屋工業大学 御器所キャンパス)

3月6日 石塚 貴浩 システム設計プログラム 修士課程2年
「運用時の安全性と複数のロボット対応を考慮したドメイン特化型教育用言語の開発」

澤村 香澄 システム情報学科 学部4年
「ペイントシミュレーションによる産業用ロボットのプログラム自動生成」

安田 伊佐武 システム設計プログラム 修士課程2年
「ソフトウェアメトリクスを使ったプログラミング学習支援」

3月8日 植田 一仁 ネットワーク技術プログラム 修士課程2年
「更新箇所修飾とコメント表示機能を持つW e b教材改善支援システム」

服部 裕樹 システム設計プログラム 修士課程1年
「テキストとノートの電子化と講義での活用」

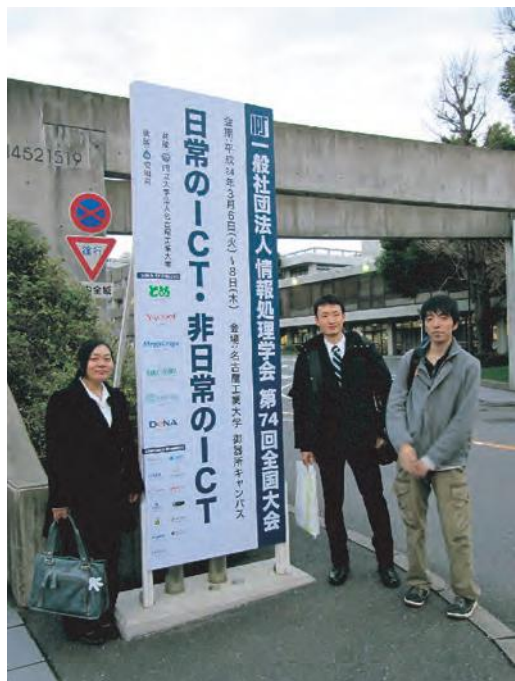
電子情報通信学会 2012年総合大会 (於：岡山大学 津島キャンパス)

3月21日 原 正樹 システム設計プログラム 修士課程1年
「A R C S 動機付けモデルに基づくプログラミング教材の試作」



春の学会シーズン、本学の学生・院生も研究発表をしました。

システム情報学科・谷川



春期休暇の時期は、多くの学会が全国大会などを開催します。本学の教育内容と近い情報処理学会と電子情報通信学会も毎年、3月に全国大会を開催しています。これらの大会に本学の学生・院生が日頃の研究成果を発表してきましたので、報告いたします。

2012年3月6日から8日に愛知県名古屋市昭和区の鶴舞公園に隣接する名古屋工業大学で第七十四回情報処理全国大会が開催されました。この大学は私の母校ですが、あまりにも変化した校内の様子に驚きながら三日間の学会に参加してきました。特に、学生時代お世話になった学校の周りにあった飲食店や商店はほとんどすべて入れ替わったか住宅に変わったように思います。情報処理学会への参加もずいぶん久しぶりとなりましたが、内容的にも大学院生・学生が発表する学生セッションが全体の三分の二を占めるくらい、学生特に学部学生の発表が大幅に増えた印象を持ちました。また、招待講演をはじめとした企画セッションも多くなったのではないのでしょうか。この大会に、本学から六件の発表がありました。一件は、長尾先生の「CGMからの観光情報の獲得」で、他はすべて学生・院生の発表です。初日には、森澤先生が指導されている大学院二年生の石塚貴浩君が修士論文として研究してきた内容をまとめた「運用時の安全性と複数のロボット対応を考慮したドメイン特化型教育用言語の開発」と学部四年生の澤村香澄さんが高木彬尋君と協働で取り組んだ卒業研究をまとめた「ペイントシミュレーションによる産業用ロボットのプログラム自動

生成」の発表が続いてありました。澤村さんは四年生で初めての学会発表とは思えないくらい落ち着いており、二人ともやっただことはちゃんと伝えられたのではないかと思います。

た。この会場には、情報科学を学ぶ人ならおそらく名前くらい聞いたことがあると思うのですが、和田英一先生（I-IJ研究所）が参加されており、澤村さんの発表ではクヌースの図形の描画アルゴリズムを勉強すると良いとコメントされていました。三日目の午前中は、谷川が指導する大学院一年生の服部君の「テキストとノートの電子化と講義での使用」と同二年生の安田伊佐武君の「ソフトウェアメトリクスを使ったプログラミング学習支援」の発表がほぼ同時に別の部屋でありました。服部君は、声が小さく少し聞きづらかったとのこと。次の発表ではこの教訓を生かしてくると思います。安田君は、質疑が若干かみ合わなかったところもあったようですが、おおむね自分のやったことを伝えられていたと思います。三日目の午後は、廣奥先生が指導されている大学院二年生の植田一仁君が「更新箇所修飾とコメント表示機能を持つWeb教材改善支援システム」を発表し、少しぎこちない面もありましたが、適切な質問があったことから考えると、彼のやったことは伝わったのではないかと思います。

3月20日からの四日間をわたって、岡山県岡山市の岡山大学津島キャンパスで電子情報通信学会の2012年総合大会が開催されました。この大会でも、安田先生の「講義内SNSシステム『Kaiwa』の設計と開発」と富士先生が指導される原正樹君の「ECG動機付けモデルに基づくプログラミング教材の試作」の発表がありました。原君は、初めての学会発表で少し上がってしまいデモンストレーションでは少してこずったとのことですが、これを契機に残り一年の研究活動につなげていただけるとを期待したいと思います。

二つの全国的な学会で、本学の学生が積極的に発表したことは、今後も継続されると良いと思いますので、本学の在校生が先輩に続いてくださることを期待します。特に、情報処理学会の全国大会では学生セッションが充実しており、各セッションで約十件の発表があり、この中から必ず一件の優秀論文が選ばれます。今回は残念ながら、情報大の受賞はなかったのですが、そんなに高いところにあるものではないと思われまので、ぜひチャレンジしてほしいと思います。発表された学生・院生のみなさま、ご苦労様でした。

公開講座終了報告

ありがたく、厚く御礼申し上げます。
無事終了することができましたことをご報告させていただきます。
すようお願い申し上げます。

参加人数		備考
一般	13	
一般	5	
一般	22	
一般	31	
一般	28	
一般	10	
一般	27	
一般	23	
一般	16	
一般	8	
一般	19	
一般	25	
一般	8	
小学3年生～小学6年生	10	
小学生とその保護者	35	親子14組参加
一般	11	
一般	18	
一般	19	
一般	7	
一般	27	
一般	27	
一般	7	
一般	20	
一般	39	
一般	8	
一般	23	
	486	



◎4月16日(土)
「人間関係が良くなる教育カウ
ンセリング1日体験講座」構成
的グループエンカウンター入門
「春期」の様子



◎5月14日(土)
「暗号の話 歴史を変えた暗号
〜エリザベス女王暗殺計画の暗
号文はなぜ見破られたか?」の
様子



◎7月7日(木)
「レベルアップ! フォトショッ
プ中級編」の様子



◎8月13日(土)
「夏休み自由研究教室〜ロボッ
トで理科を学ぼう〜」の様子

平成23年度 北海道情報大学

平成23年度北海道情報大学公開講座にご参加いただき、まことにおかげをもちまして、全26講座にたくさんのご参加をいただき、今後も北海道情報大学の社会教育活動にご理解とご支援を賜りま

No.	講 座 名	回数	参加費
1	人間関係が良くなる教育カウンセリング1日体験講座～構成的グループエンカウンター入門(春期)	1	1,000円
2	フォトショップ上級編 (デジタル一眼レフカメラ)	2	1,000円
3	経営学を学ぼう	5	1,000円
4	フォトショップ始めの一步 初級編	4	1,000円
5	暗号の話 歴史を変えた暗号～エリザベス女王暗殺計画の暗号文はなぜ見破られたか？	2	1,000円
6	英文 eメール・英語プレゼンテーション入門	3	1,000円
7	食と予防医療 (さっぽろバイオクラスター (Bio-S) ・本学合同公開講座)	3	1,000円
8	初めてのデジタルカメラ	2	1,000円
9	経営学ケーススタディ	5	1,000円
10	人間関係が良くなる教育カウンセリング1日体験講座～構成的グループエンカウンター入門(夏期)	1	1,000円
11	レベルアップ!フォトショップ中級編	4	1,000円
12	(初級編) パソコンで季節のグリーティングカードを作しましょう!	4	1,000円
13	(中級編) パソコンで季節のグリーティングカードを作しましょう!	4	1,000円
14	夏休み自由研究教室 こどもビデオ編集体験講座	2	無料
15	夏休み自由研究教室～ロボットで理科を学ぼう～	1	無料
16	地域学講座 北海道の地域医療:歴史と現状	4	1,000円
17	生活習慣病の予防医学	2	1,000円
18	JavaScriptを用いた初級プログラミング	3	1,000円
19	手軽に作るクレイアニメ	4	1,000円
20	モチベーション・マネジメント～人のやる気はどこから来るのか?～	5	1,000円
21	パソコン入門	5	1,000円
22	現代青少年のコミュニケーションの問題性とその対処法～教育カウンセリングを手がかりに	4	1,000円
23	ITビジネス閑話	5	1,000円
24	Word&Excel初級編	5	1,000円
25	人間関係が良くなる教育カウンセリング1日体験講座～構成的グループエンカウンター入門(冬期)	1	1,000円
26	生活習慣病と遺伝子～あなたの体質は遺伝子でどこまで分かるか～	1	500円
	合 計	82	



◎11月12日(土)
「地域学講座 北海道の地域医療:歴史と現状」の様子



-学生サポートセンターからのメッセージ-



学生サポートセンター 就職コーナーは こんなところ

学生サポートセンターには、求人票や企業パンフレットを含む各種就職資料、SPIや一般常識等の筆記試験参考書や就職活動対策本、求人検索や企業ホームページ閲覧用のパソコン、その他にもiPad、DSソフト等設置し、皆さんの来室をお待ちしております。

就活シーズン真っ只中と言える最近では、履歴書やエントリーシートの作成に奮闘している4年生をよく目にします。就職活動に関する相談、質問等、遠慮せず声をかけてくださいね！



今年の就職活動はどうか？

2013年に卒業予定の4年生、大学院2年生の就職活動がスタートしています。

今年の就職活動は、経団連が中心になって定める新卒者の採用活動に関するガイドライン「新規学卒者の採用・選考に関する倫理憲章」の見直しで、学生と企業にどの程度影響を与えるのかということが話題になりました。

倫理憲章の主な変更点は、採用における広報活動開始の期日の見直しです。これに伴い、リクルートやマイナビ等の就職情報会社が運営するサイトの正式オープンが10月1日から12月1日となり、就職活動の開始時期がこれまでと異なり、実質2ヶ月遅れてスタートすることになりました。

今年は昨年より2ヶ月遅れての就職活動開始になるという情報が、学生の不安感を煽ったのか、各サイトのオープン初日はアクセスが集中し、サイトに繋がらないという現象が起き、ニュースでも取り上げられました。

3月5日付でリクルートが発表した「就職白書2012」において、今年の採用活動の展望について企業に行ったアンケートによると、採用基準は「2012年卒並み」、全体的な採用スケジュールとしては、倫理憲章の改定の影響で時期は「遅く」なり、期間は「短く」なると回答した企業が多かったとの調査結果をまとめています。

短期決戦になると当初から予測されていた2013年卒の就職活動ですが、現在のところ、その予測に違わない状況になっていることが分かります。

企業が求める人材像とは

就職活動において、何よりも求められるのはコミュニケーション能力です。経団連による「新卒採用に関するアンケート」では、コミュニケーション能力を重視するという回答が何と8年連続1位という結果になっています。

他に重視される要素としては、「主体性」「協調性」「チャレンジ精神」「誠実性」「責任感」が挙げられますが、コミュニケーション能力を含め、どの要素も残念ながらすぐ身につけられるものではありません。

1年生から3年生の皆さんは、学内、学外を問わず様々な活動を通じて、上記の要素を育んでほしいと思います。例えば、学内という範囲で考えてみただけでも、部活動やサークル、各種コンテストやプロジェクト活動、資格取得、

勉強、他にもまだまだ色々あると思います。

大学4年間という期間は長いようで、あっという間に過ぎ去ってしまうものです。数多くの経験を通じて、結果として就職活動の際に必要な能力を身につけ、最終的に納得できる就職をするということが理想です。

このような活動を学生サポートセンターでは、積極的に支援していきたくと思っています。皆さんにはぜひ大学の施設、設備や環境を大いに活用し、教職員との関わりを多く持ち充実した大学生活を送ってほしいと願っています。

最後に、就職活動で何か困ったこと、分からないことがあればいつでも学生サポートセンターへ相談に来てください。

ドイツゲーム

同好会

ドイツゲームとは？

ドイツゲームとは、ドイツ製のゲームだけではなく、ドイツを含む世界中の様々なテーブルゲームのことを言います。

ドイツゲーム同好会の活動

ドイツゲーム同好会は、ゲームを通して人とコミュニケーションを深める

という指標を持って活動をしています。

活動は週に1〜2回ほど行い、

様々なドイツゲームに触れています。

特に、ゲームの知識や実力だけではなく運の要素も勝敗に絡むような、初心者でも楽しめるゲームを中心に扱っています。

今年は、一般の学生が自由に参加できる

ゲーム会の主催や、札幌で活動をしている

ドイツゲームサークルのゲーム会への参加を予定しています。

部員募集中です！

ドイツゲーム同好会は去年に設立したばかりで、

現在は2年生が主体となって活動しています。

新入部員は学年に関係なく募集中ですので、

入部希望の方やドイツゲームに興味がある方、

何かご質問などある方は下記の連絡先まで

ご連絡ください。

連絡先：情報メディア学科2年 長澤

magi.2580@live.jp



短編映画「パーフェクト・ワンルーム」の制作

情報メディア学科3年

平舘 銀河

今回、島田ゼミの三年生を中心に昨年10月から約五カ月をかけて制作してきた短編映画「パーフェクト・ワンルーム」がついに完成しました。私はその中で監督を務めました。

作品のテーマは「豊かな生活の裏側にある様々な問題を考える」です。現在の日本では私たちは何不自由なく暮らすことが出来ず。しかしそこには色々な命や自然を犠牲にしている現実があります。そういう現実や今までのライフスタイルについて考えるきっかけになるような作品を作れば、震災などがあった今の日本では意味のある作品になるだろうし国際映画祭でも戦えるだろうと考えました。目標は今年の9月に開催される札幌国際短編映画祭での受賞です。

内容は、日常生活において不自由のない〈完べきな部屋〉に暮らす男が、突然目の前に現れた巨大な手によって、自分の全く知らない、興味もなかった外の世界に連れ出され、果たして何を思うのか、というものです。

今回の企画はまずゼミの三年生を三チームに分け、それぞれ案を練っていきましました。この企画は私のチームの企画ではなかったため、他の人が考えた企画を仕上げていくのは難しかったです。企画者と私と脚本を書く人などで企画がどうしたらもっと面白くなるかなどを話し合っっていき企画を固め、脚本に起こし

ていきました。他にも今回は〈完べきな部屋〉のセットを作ることにしたので、美術部と話し合いながら部屋のセットの案を固めていきました。セットは宮の森スタジオというプロの撮影スタジオを借りて美術部がデザインから設計、建て込みを行い、撮影しました。しかし、撮影をさせてもらえることが決定したのが撮影日の二週間前だったために直前に



なって必要な物が増えてしまい、特に美術部のスタッフはその期間で追加のセットを作らなくてはならなくなったので大変でした。実写だけでは映像化が難しい部分は、アニメーションで表現することにしました。実写とアニメーションの合成は私自身も初めてだったのでとても大変でした。

たとえば役者さんに何も無いところで溺れる演技をしてもらったりしました。演出自体も大変だったし、そこに合成のことを考えると編集ではこう撮った方が都合がいいという意見もありましたし、事前に必要な要素を想像することや、撮影当日、また撮影後の編集作業に至るまで、すべての過程が大変でした。

そんな中でも今回主役を演じてくれた栗栖安基法さんはわざわざ紋柄から来ていただき本当に私たちの企画に真摯に答えてくれました。また今回はカメラマンをプロの方にお願いしました。機材もPanasonicのAG-AF105というフルハイビジョンの記録が出来る物をお借りして支笏湖での撮影では凄くきれいな画が撮れました。撮影前後も様々な撮影の相談や編集の相談にも乗っていただき助かりました。

編集は今回、ほとんどが合成だったので私がベースの粗い編集をした後に、VFX（視覚効果）部の谷君が合成の作業をし、出来た

ものをまたもらって編集するという分担作業でした。そういう編集のスタイルは初めてだったのでどの位連絡を取り、何を確認したらよいかなどがわからず大変でした。そして編集や合成の段階で、撮影の時こうしておけばよかったとかが出てきてしまったのでそこは反省です。VFXの作業では他に、セットの線消しがありました。建て込みをしたセットはベニヤ板を角材で補強したユニット製のものなので、並べるとどうしても境目に線が出ます。そこでその線を編集でVFX部が一つ一つ細かく消していくという膨大な作業にな



りました。また、アニメーションの合成は何よりもまず素材として大量に絵を描く必要がありました。作画は同じ絵を何枚も微妙にずらして描かなくてはならないので大変でした。その後、整音と呼ばれる音の作業でプロの方にお願いました。今まで私がいまいちやっでこなかった作業だったので、お願いしていた日程に間に合わなかったりと、整音をお願いしていた方に迷惑をかけてしまいました。そして今回はシアターキノという映画館で上映会をやらせてもらいました。ちゃんと上映設備の整っている映画館で上映させて

もらえるということは映画を作っている学生にとって本当に光栄なことであり、ありがたいことです。そしてそれだけ立派な会場で上映会をやらせてもらえるので、私たちも集客をしっかりとやらないといけないということになり、フライヤーを作り印刷会社に発注し、七百枚をシアターキノの周辺のお店などに置かせてもらいました。イベント部のみんなが頑張ってくれました！そしてその甲斐あって六十三席の会場に満



員御礼の状態で上映会をやるのが出来ました。全員でお客さんをお呼びするための努力をしてきたことが実だったので嬉しかったです。

今回の企画で私たちはたくさんの方の世話になりました。今度の企画で私たちがたくさんの方の世話になりました。本学からも多大なるご協力をいただきました。普段普通に生活していると接することのないプロの方のお世話になることが出来て本当に刺激になりましたし、勉強になりました。本当にすべてのスタッフに感謝しています。ありがとうございました。

私の薦める
1冊の本

このコーナーでは、日頃の勉学や大学生活を豊かにするため、図書館で読みたい本や読むべき本を発見する手助けとして、本学の教員等による推薦図書をご紹介します。ブックガイドとしてお役立て下さい。

『幼年期の終り』

アーサー・C・クラーク 著

早川書房 1979 ハヤカワ文庫

配架場所:5階開架書架 <請求記号 933||CLA>

『一九八四年[新訳版]』

ジョージ・オーウェル 著

早川書房 2009 ハヤカワepi文庫

配架場所:5階開架書架 <請求記号 933.7||ORW>

『夏への扉』

ロバート・A・ハインライン 著

早川書房 2009

配架場所:5階開架書架 <請求記号 933||HEI>



©早川書房

文=守 啓祐(もり けいすけ)

(情報メディア学科教授)

読んでいる方も多いかもかもしれませんが非常に有名なSF (Science Fiction) 作品です。コンピュータ関連、映像、アニメーション関連業界に興味のある学生は必読作品でしょう。初めてこの本と出会ったのは中学時代で、ハヤカワ文庫他ジャンルを限定せずに乱読し、まさに図書館の棚に並んでいる順番に読んでいました。その時も感銘は受けたのですがその後何度も読み返すうちに段々と存在が大きくなってきた作品です。早い時期にこのような自分の成長に従って育つ作品と出会うことは重要です。その後、この世界観に影響を受けた作品も多く出ています。作品自体はSFというより人間はいかなる存在かという哲学的な内容を含んでいます。表面的には宇宙人による人類の飼育なのですが人間の存在、善悪そのものを問いかける内容になっています。比較的同じ時期に刊行されて比較される作品にジョージ・オーウェルの1984があります。こちらは完全に管理された世界を描いた作品で表面的に違いはありますが、同じことを描こうとしているのではないのでしょうか。50年以上昔の作品ですがコンピュータの今の姿を現実的に描き出していることに驚かされます。村上春樹の1984は明らかな影響が見られます。他の映像・アニメ作品にも多くの影響があります。アップル(コンピュータ)のマッキントッシュの最初のCMがスーパーボールで上映されましたがその影響が色濃く見られます。支配者としてのビッグブラザーはIBMがモチーフと言われています。最近ではこのCMに関連してIBMのポジションをアップルにしたCMが2011年のスーパーボールで流されました。IBMを揶揄したCMを作ったスティーブ・ジョブスが揶揄される対象になっているのが象徴的です。このCMが流された時はまだジョブスも存命で同年秋に亡くなったのが何かの因縁のようです。

最後に、北海道の寒い冬にはハインラインの「夏への扉」もまた読みたくなります。



『てにをは辞典』

小内 一 編
三省堂 2010

配架場所:4階参考図書 <請求記号 815.7||ONH>



©三省堂

文=田中 里実(たなか さとみ)
(医療情報学科講師)

『てにをは辞典』という辞書の名前、不思議だと思いませんか。国語辞典や漢和辞典は、気が遠くなるくらいたくさんの言葉や漢字を集めて載せているのに、「てにをは」、つまり助詞って数えられるほどしかないんですよ。それなのに、辞書？

この辞典に載っているのは、助詞と言葉の「組み合わせ方」なんです。例えば、「恋」を引いてみましょう。「恋」の見出しの下に▲と太字の「が」があります。この後ろに「恋が」に続く言葉を挙げますよ、という印です。その後には「終わる、かなう、さめる、成就する、生じる、進む、成り立つ、冷える、実る、芽生える、燃え上がる、よみがえる」とあります。始まりと終わりがあり、火や植物の生長にも喩えられるという「恋」の性質も見えますね。「恋が」の後には「を・と・は・に・の」と、助詞が同じように続きます。

では、ここで問題です。「恋に」に続く言葉は、いくつ載っているでしょう？ ぱっと思いつくのは「恋に落ちる」や「恋に破れる」。もっと出てきますか？ 答えは、37個です。多いでしょう？ ここでたくさん言葉の組み合わせができた人は、いわゆる「語彙が豊富な人」です。ただし、不適切な助詞と言葉の組み合わせは「奇抜」にはなっても、「豊富」とは評価されないのが要注意。では、語彙が豊富だとなにかイイコトがあるのでしょうか。ええ。見える世界が変わるんです。恋は「火」だと知っている人は慎重に扱うでしょうし、「植物」なら水もあげるでしょう。恋に限らず、ゼミでもアルバイトでも同じこと。「研究する」「働く」と組み合わせられる言葉を知ると、目の前の悩みを考える手がかりになるかもしれません。言葉を知るとは、その言葉を使ってきた人たちが本にも載らないような身近なことをどう考え、どう応じてきたか、その知恵を受け継ぐこと。この辞典に限らず、多くの辞典と仲良くなって、皆さんの人生が豊かになりますように！

『隠れていた宇宙(上)(下)』

ブライアン・グリーン 著
早川書房 2011

配架場所:5階開架書架 <請求記号443.9||GRE>



©早川書房

文=豊田 規人(とよた のりひと)
(システム情報学科准教授)

タイトルからはやや想像しにくいですが、この本はパラレルワールド(並行宇宙)についての科学啓蒙書である。最初に誤解のないように述べるが、現代の科学者は、競ってSF的興味から並行宇宙の存在を明かそうとしてきたわけでは、決してない。むしろ、自然界の様々な現象や宇宙観測で得られたデータを理解しようと、真摯に様々な科学理論を構築してきた。驚くべきことに、それらの理論の多くが、その副産物として並行宇宙の存在を予言するのである。この本は、様々な科学理論が予言するそれぞれの並行宇宙について、極めて整然と、しかも分かりやすく解説している。具体的には、9種の並行宇宙が紹介されており、下巻の11章にはそれらが、受験参考書のように整理されている。まずそこを見て、興味あるパラレルワールド描像を抜粋して読むことも可能である。科学理論としては主に、量子論、インフレーション宇宙の他、超弦理論に基づいているが、特に、超弦理論からは4種の並行宇宙描像が述べられている。これらの理論はSFより遥かに想像力豊かな理論達である。本大学の学生に特に興味ある描像は、10章の「宇宙とコンピューターと数学の実在性」であるかもしれない。そこには、現実の世界とと思っているこの世界が、シミュレーション上の意識を持った人工生命の世界であるかもしれないという説が説得力を持って紹介されている。又、想像絶する程の数の並行宇宙から、現代科学の敗北ともみなされる「人間原理」についてもコンパクトに分かりやすく記述されている。本書の並行宇宙の考察から導出される、自分と全く同じ(しかし若干違った歴史を歩むかもしれない)人間達の存在は、人生観に少なからず影響を与えるはずである。尚、同じ話題の本としてやや古いが、カク・ミチオ「パラレルワールド」(NHK出版)もある。並行して読むのも一興である。カク氏はスカパの科学番組でお馴染みのように、表現が劇的であるという点で興味をそそる。

私の薦める
1冊の本

『三四郎』

夏目漱石 著

岩波書店 改版 1990 岩波文庫

配架場所: 4階文庫・新書 <請求記号 913.6||NMS>



©岩波書店

田城 徹雄(たしろ よしお)
(情報メディア学科特任教授)

諸君が学生時代に読むべき本として夏目漱石の『三四郎』を挙げ推薦する。

そこは百年の昔、大学のキャンパスが広がり学生三四郎が日本文学史上最初の教養小説の中に登場する。若き知性が意思と情熱のチャリオットを駆ってパエトンのように天翔けるのである。留学から帰国して東大講師となった夏目漱石は旧制高等学校の英語教授廣田蓑^{ちよう}として、小宮豊隆は文科学生小川三四郎として、正岡子規は同学の学生佐々木與次郎として、熊本五高出身の寺田寅彦は物理学者野々宮宗八として劇中の人となる。里見美禰子^{みねこ}は平塚らいてうである。

劇は大学を舞台として明治維新の不完全性による半封建遺制の中で、近代的市民としての自由な精神を希求する知識人の苦闘を展開する。夏目漱石は資本主義的精神一般の政治経済学的規定であるところの、私的に所有された精神の自由な発展の可能性および疎外と生産の無政府性に起因する放恣な悪意の闇の危険性を初めて剔出した日本のシェイクスピアである。

徳川幕府治下の名主として瓦解に遭遇した漱石の出自はもとより封建社会に組みするものではなかったが、半封建的遺制と絶対主義的天皇制の下では近代的市民社会の自由な精神を実現することが不可能であることを見て取ったとき則天去私^{そくてんきよし}という老荘思想に転落してゆくのである。

その後五十年余を経た今を去る五十年の昔、楡の杜深き北大のキャンパスに田上三四郎が理類の新入学生となって薩摩から来た。尾崎與次郎が奇しくも『坊ちゃん』の松山尋常中學校：現松山東高等学校から、北大のクレオパトラと謳われた伊藤美禰子^{みねこ}が朔北^{そらちごほり}の空知郡から、旧寺田寅彦邸の薬草園^{まきむらこう}と槇村浩^{へい}の囚塀^{ついで}の築地^{まなびや}を学舎の路とした田城宗八が土佐から、偉大なる暗闇には程遠かったが der Alte の風貌を持つ弘谷蓑先生が長州から来て我らは北大に邂逅した。

はりつめし初学のこころ恃みして

かの講堂に講義聴きし日

斯くして我らの世界は燦としてエルムの柱に盪^{うご}き、我々の疾風怒濤の学生時代が始まった。思えば我々は『三四郎』を初期設定文化空間として共有していた。

卑俗な実存的自然主義を拒否して当時の下流社会から余裕派と揶揄された夏目漱石は近代的市民としての自由な精神「私の個人主義」をなお探求する途上で世を去ったが、ニーチェの輩の陰惨な非合理主義である裏街道の擬哲学に未来がないことを鋭く見抜いていた。漱石は勃興期にあった日本資本主義の精神の初源的完結のうちにその必然的没落を見ているがゆえに^{れいだいほうすん}靈臺方寸のカメラに^{ぎょうきこんだく}澆季溷濁の俗界を清くうららかに収めて我らが眼前に百年のリアリズムを誇る。

私は漱石が『三四郎』の中で畏敬したヘーゲルのフンボルト名称ベルリン大学での開講に当たっての聴講生への挨拶を『Enzyklopädie der philosophischen Wissenschaften』を繙いて感激を以て読み我がアストロラーベとして人生を航行してきたし古稀の衰翁となってなお航走を辞めない。

今、百年余を経て東大の三四郎池に当世の学生の姿が映り諸君の姿に重なる。

今、我ら五十年を経た。変わることなく蘇武の如くに^{ぼうぎゅう}犂牛節を守る陸水学の田上三四郎元教授から久し振りの葉書が届く。曰く『酷い世の中となったものです。機会を得てぜひお会いして意見を交わしたい。』我が返書に言う。『雁書拝受の感がございます。田上三四郎と相遭うて語れば隴を得た思いでありましょう。望むらくは、尾崎與次郎の差配で上野の精養軒に一席を設け伊藤美禰子さんをお招きして一堂に会すれば談論風発して我が蜀望が叶いましょう。』

花影の^{ようらく}瓔珞なせる^{かんぼせ}顔の

きみが^{えまい}微笑に^{あめつち}揺れし天地

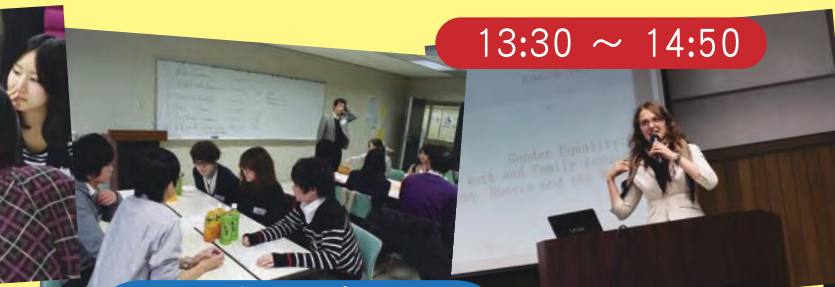
五十年前の我が心躍りの物語りが星霜を経て今や著名な医師となった彼女の微笑を誘えば我らは漱石の希求した自由な精神を生きたことになろう。

大雪山をとくに訪れる国立生理学研究所施設に長たりし尾崎與次郎博士とは、今年、私が登頂を予定する標高2012.88mのニベソツ山の山巔で歓談したいものである。弘谷菘先生は熊本の大学を辞して静岡に移ったが^{つつが}恙なからうか。

諸君が大学生としての文化空間のアイデアを求めるのであれば百年の星霜に耐え時代の変革期のたびに蘇った『三四郎』である。諸君は新たな『三四郎』の劇中の人物として登場することができる。

寄生性と腐朽性の進行によって死滅しつつある資本主義の時代の闇は否定の弁証法としての時代の曙光でもある。この変革期に生きる諸君が卑俗な漫画やゲームや映像デザインのごとき感性世界に沈淪することなく即自的自己を廃棄し、ひと度は叡智の杜の迷羊(ストレイシープ)となって知性的な对自的真理の中に自己の精神を蘇生するために『三四郎』を読み学びて思う学生となることを切に願って本書を推薦する。

13:30 ~ 14:50



サツポロ・インターナショナル・ナイト

Main-theme

「語ろう！世界と日本」

に行ってきたよ！



inかぞる2・7

第1部 Presentation



第2部 Group Discussion

このイベントは双方向の留学生、教育関係、文化団体など日本と諸外国の国際交流が目的です。

川上ゼミでは、ゼミ生がこの会を主催する財団法人北海道青少年科学文化財団のWEBサイト制作のお手伝いをしていくなればと積極的に参加を促しています。今回、新4年生は当日就活イベントがあり少数でしたが、3年生のゼミ内定者とその仲間呼びかけ16名が参加しました。

サツポロ・インターナショナル・ナイトは、右記財団が毎年行っています。この財団は、財団法人松坂科学文化振興財団として1973（昭和48年）に設立されました。故松坂有祐氏が初代理事長、現在は釧路高等工業専門学校校長の岸浪健史氏。目的は「社会に有為な青少年を育成するため、科学及び文化の普及振興に必要な事業を行い、もって北海道の発展に寄与すること」となっています。

主な事業としては、青少年の科学や文化活動への助成です。普及事業では、先端科学移動大学を1992年より釧路市、旭

川市、函館市の3都市で順送りに開催しています。そして、国際交流事業として「サツポロ・インターナショナル・ナイト」を開催。毎年2月の札幌雪まつりの時期に、20ヶ国以上の留学生など約350名程が参加し、今年で34回目です。

会場は2月11日にかえる2・7と京王プラザホテルで行われました。3部構成で、1部はスタートプレゼンテーションとして、各テーマのリーダーが、スクリーンを使用し、英語または日本語でそれぞれの討論内容を説明します。2部は、参加者がグループ毎の部屋に分かれ、リーダーがルール説明、テーマごとに英語、日本語でのディベートリングが始まります。グループによりルールは異なりますが、おおよそ20分くらいでシャッフルされメンバーが交代します。約2時間半で討論が終了し、リーダーは討論された内容を英語と日本語にまとめます。3部は京王プラザホテルの会場でパーティ。理事長の開会の辞で始まり、各グループのリーダーが今日討論された内容のまとめを英語と日本語で報告。続いて「腹へこ」の若者が待っていたパーティが始まります。パーティの席はあらかじめ決められていたグループ毎での立食形式でしたが、次第に自由に動き、友達同士や、外国の方と話して英語力を高めたい人などが、輪を作り料理を食べながら話を弾ませました。そして、打楽器をたくさん持ったスタッフが現れ、会場内全員にそれを配り、ステージ上で、会場で、全員が一体となり壮大なドラムセッションが展開されました。

最後に、ステージに一人の指揮棒を持った紳士が現れ、これまた全員での合唱が始まります。「ふるさと」「上を向いて歩こう」などよく知られた歌をみんなで歌い、大団円となりました。



第2部：Group Discussion(Sub-theme)

北海道情報大学からの参加者

- 新4年生：岩崎欄、佐藤江里菜
 新3年生：池田美沙希、江本三佳、大橋正汰、岡嶋貴仁、金城奈々子、田中皓大、仲田春奈、金子菜亜沙、森田榛花、才田恵梨香、澤 翔子

- A. 語ろう“幸せ”について ~国民性と社会情勢を写す世界の幸せ観~
- B. 徹底討論、「グローバル化時代の多文化共生社会」
- C. メディアは世界を変えられるのか？ ~既存メディア vs 新メディア~
- D. 語ろう、男女平等について ~日本と世界の家庭や職場~
- F. 若者よ、飛び出せ、世界へ！ ~いまこそ留学の勧め~
- G. “日本の魅力、世界の魅力” ~お互いの国の観光について~



18:00 ~ 19:50

15:00 ~ 17:30



第3部 Friendly Party

インターナショナルを総べて



当イベントには、国や年齢が異なる色々な人が来ていた。ディベートでは他の大学の人や留学生などと意見を交わすことができたので、いい経験になった。たまには自分のいつもいる環境とは違う場所に行くことって大切だと思う。いつもと違う景色を体験することは海外旅行をしなくてもすぐ近くに身近にあるものなんだと思った。来年は英語で思い切って喋ってみようと思った。本当に参加してよかった。



私の参加したグループの外国人の方たちはとても日本語が上手で、ディスカッションがスムーズに進行しました。手紙など旧メディアの暖かさや、新メディアのスピードや情報の信憑性、お互いのメディアの捕らえ方や良し悪しなど、自分が感じたことのないことにも気づかされてとても有意義なディスカッションになりました。参加してとても楽しかったので来年ももし参加する機会があれば参加したいと思います。

ディスカッションで、インドネシアとナウルの方と話す機会があった。二人は共通して「日本の激辛は全然辛い、なまぬるい。」とおっしゃっていた。食品の保存には香辛料が欠かせないとはいえ、辛いものが特に好きでもない僕には耳を疑うような言葉であった。パーティの最後の方に、全員が打楽器を手に取りセッションを行った。人種・国境・文化を超越した会場の一体感は私の想像を軽く超えていった。



私のグループは、どんなSNSを利用して、インターネットで調べ物はするか、電子メールで愛を伝えることができるかなどを話し合いました。私は片言の英語でしか話せませんでしたが、それでも考えていることと、その理由を相手に英語で伝えることができ嬉しかったです。そして、もっと英語で話せるようになりたい、国だけではなく様々な世代の人と話してみたいと思いました。



私は「"幸せ"について」というフォーラムに参加し、「経済発展」や「人間関係」の面から幸せについて考え、話し合いました。同じグループに新川さんというご年配の方が参加していて、人生の先輩としてたくさんのためになることを教わりました。このインターナショナルナイトの後に、新川さんが翻訳した「オデュッセウス物語」の本を贈っていただき、とても嬉しかったです。



留学生報告で、北海学園の中国人留学生の話がとても印象強かったです。自分の目指す分野の勉強をするために母国を離れ、言葉も文化も違う国に何年も滞在する事に驚きました。パーティでも、北海学園大学の方達と話をしていました。彼らはもうすぐ中国に1年間留学するらしいです。留学するのはどんな気持ちなのか、今になって聞いておきたかった事が出てきて後悔しています。



今回、外国の方とディスカッションする機会がありました。日本にいなかなかなか英会話をすることはないので、こういう機会に出会えてよかったです。色々な人とコミュニケーションをとることは、自分の考えの幅を広げることが出来てとても良いことだと思いますし、楽しいことだと思います。今回のことで私は、英語にもっと触れて話せるようになりたいと思いました。



私は元々、人見知り激しく、ちゃんと交流できるか不安でした。が、話し合いをしてみたら、みなさんが気さくに話しかけてくださって。日本人がほとんどでしたが、いろんな人とコミュニケーションをとることはとても大事なな、と感じました。多少は海外の方とお話したので、次またこういう機会があったときは、今回よりは積極的にがんばろうと思いました！

私のグループはインドネシアとナウルからいらっしゃった方がいて、主に食文化や嗜好について話を聞かせてくれました。彼らは、日本人が知らないことや、疑問に思っていることを理解して話を進めてくれていました。それを見て、自分が次日本を紹介する機会があれば、外国から見てもわかるような当然のことではなく、相手が知らないようなことを教えてあげたらいいなと思いました。



Designed by Haruka Morita



大学主要行事等 <12月2日~4月1日>

◆◆ 教職員の動向 ◆◆

◇法人本部◇

《職員》

3月31日付

(退任)

本部長 中居 聰士
事務局長 中島 安敬
事務局長 横田 敏雄

(兼務を解く)

東京事務所長 中居 聰士
総務課長兼企画調査室長 中島 安敬

4月1日付

(就任)

本部長 中島 安敬
事務局長 横田 敏雄
東京事務所長 田中 克義

(兼務)

事務局長 石川 弘行
総務課長兼企画調査室長 石川 弘行
総務係長 渡利 国彦

◇大 学◇

《教員》

3月31日付

(定年延長)

学 長 長谷川 淳(1年間)
教 授 和田 龍彦(2年間)(医療情報学科)

(辞任)

先端経営学科長 中村 忠之

4月1日付

(採用)

教 授 岸田 一(情報メディア学科)
講 師 松本 紗矢子(先端経営学科)
講 師 ジョエル ライアン(先端経営学科)

(就任)

情報メディア学部長 山北 隆典
研究科長 谷川 健
教務部長 富士 隆
就職部長 中村 忠之
図書館長 立花 峰夫
先端経営学科長 坂本 英樹
医療情報学科長 和田 龍彦

《職員》

3月31日付

(定年退職)

会計課長 石川 弘行

(兼務を解く)

通信教育部事務部長 近藤 始
大学事務局長 横田 敏雄

4月1日付

(採用)

会計課長 石川 弘行(嘱託職員)
学生サポートセンター事務室顧問 赤泊 英哉
(学習支援客員教員) 栗林 利廣
外川 藤博

(就任)

通信教育部事務部長 岡本 徳男

(配置換)

教務課課長補佐 岡田 潔(図書館事務室 室長補佐)
入試課係長 小川 勝利(広報室係長)
学生サポートセンター事務室係長兼入試課係長 古賀 朋子(入試課係長)
高清水 靖和 (通信教育部事務部教務係長)

広報室係長 木村 肇
(学生サポートセンター事務室主任)

6日~15日 集中講義
10日 経営情報学部教授会
16日~22日 追再試験期間
17日 情報メディア学部教授会
20日 大学説明会(東京)
24日 全学教授会
3月 1日 企業・病院説明会
2日 F Dフォーラム
5日 情報メディア学部編入学試験(3次募集)
臨時経営情報学部教授会
臨時情報メディア学部教授会
13日 経営情報学部教授会
情報メディア学部教授会
14日 一般2期入学試験
16日 学位記授与式
23日 全学教授会

◇大学院◇

12月12日~15日 学位論文等 事前審査会
1月31日 学位論文等 公開発表会
2月11日 大学院入学選抜試験(2次募集)
23日 研究科委員会
24日 学位論文等 事前審査(再)
3月14日 奨学金返還免除候補者選考委員会
26日 研究科委員会

◇通信教育部◇

12月 5日~9日 後期 I P メディア授業科目試験
16日 春期第3回入学選考
16日~18日 後期地方スクーリング(1)
1月13日~15日 後期地方スクーリング(2)
21日~22日 後期印刷・インターネットメディア授業科目試験②
27日 春期第4回入学選考
2月24日 春期第5回入学選考
3月16日 学位記授与式、春期第6回入学選考
30日 春期第7回入学選考
4月 1日 前期インターネットメディア授業開始

◆◆ 広報活動 ◆◆

《進学相談会》

12月:北海道 13会場(苫小牧、江差、八雲、知内、留萌、札幌(2)、旭川(2)、釧路、帯広、北見、倶知安)

1月:北海道 4会場(伊達、枝幸、中標津、滝川)
2月:北海道 5会場(網走、紋別、名寄、稚内、函館)
3月:北海道 6会場(室蘭、帯広、釧路、根室、岩見沢、浦河)
神奈川県1会場(横浜)

《高校内ガイダンス》

12月:北海道 6校(札幌龍谷学園高校、札幌北斗高校、札幌創成高校、江別高校、札幌新陽高校、札幌第一高校)

神奈川県1校(横浜創学館高校)
1月:北海道 1校(北広島西高校)
2月:北海道 2校(小清水高校、旭川大学高校)
千葉県 1校(柏日体高校)
3月:千葉県 2校(千葉黎明高校、敬愛学園高校)
東京都 1校(淵江高校)
神奈川県1校(立花学園高校)

《高校内進路講演会》

12月:北海道 10校(大野農業高校、札幌東商業高校(2)、寿都高校、上川高校、釧路東高校、旭川実業高校、武修館高校、苫小牧西高校、伊達高校)

1月:北海道 2校(名寄産業高校、室蘭東翔高校)
2月:北海道 3校(札幌新陽高校、旭川大学高校、室蘭大谷高校)
3月:北海道 8校(江陵高校、大樹高校、札幌東豊高校、旭川龍谷高校、稚内大谷高校、名寄産業高校、雄武高校、興部高校)

《高校出張講義》

12月:北海道 2校(岩内高校、斜里高校)
3月:北海道 1校(富良野高校)

《高校訪問》

12月:北海道220校、青森県30校、茨城県2校、埼玉県2校、東京都10校、神奈川県1校
1月:埼玉県7校、千葉県3校、東京都3校、神奈川県3校
2月:北海道140校、栃木県1校、埼玉県1校、東京都2校、神奈川県1校
3月:北海道120校

《オープンキャンパス》

3月25日 本学

《入試説明会》

12月11日 本学

2月26日 本学

◇通信教育部◇

《入学説明会:本学独自》

12月:4会場(東京、名古屋、大阪、本学)

1月:2会場(東京、福岡)

2月:1会場(東京)

3月:2会場(東京、本学)

《合同入学説明会:私立大学通信教育協会主催》

2月:10会場(東京、横浜、新潟、名古屋、大阪、岡山、広島、福岡、仙台、札幌)

◆◆ 主な来学者 ◆◆

◇大 学◇

2月 1日 高橋はるみ 北海道知事一行

3月 9日~14日 ラジャマンガラ工科大学一行

◇広報室来学者◇

12月 9日 北広島西高校(大学見学会:生徒9名、教員1名)

離職率が高い、そんなニュースが流れてくると、とても残念な気がします。思い描いた職場とは違う職場だったのかもしれない。その反面、働く意欲はあっても、働く先がみつからなかったという方もあります。いずれにしても、大学で学んでその力を発揮できないのはとても残念です。本学でもこの3月、学位記授与式が行われ、多くの卒業生が巣立っていきましました。皆さんの前途が洋々と拓けていくことを心から念願しております。

(S)

編集後記

学内報について、ご意見、ご要望などがございましたらnanakamado@do-johodai.ac.jpまでお寄せ下さい。